

職員会議（7月21日（木）） 校長より

◎「ありがとう」と言える・言ってもらえる生徒・教職員・学校！

1 「いわき湯本高校」という「新しい風」がさわやかに吹いております！

※部・委員会活動、学校行事など、いわき湯高生の頑張りを発信していきましよう！

※「一人一人の頑張り」が「学校づくり」につながります！（「学校づくり」は「自分づくり」というプロジェクト！）

※「本校舎」の生徒と「遠野校舎」の生徒がともにがんばっています！

○校内ICT環境整備（先生と生徒をつなぐクラウドサービスのまとめ、FCS保存量上限適用への対応、一人一台端末の設定、プロジェクターの接続など）・・・感謝申し上げます

○高校体育大会県大会、東北大会・・・おめでとう！水泳部男子100メートルバタフライ1位含め8種目で出場権獲得

○県総体県大会・・・おめでとう！弓道部女子遠的1位、テニス部男子・女子ダブルス1位、剣道部女子団体3位

○県総体いわき地区大会・・・おめでとう！1位：剣道部、テニス部、陸上競技部、2位：テニス部、弓道部、バドミントン部、陸上競技部、3位：バレーボール部、テニス部、弓道部、バドミントン部、陸上競技部

○全国高等学校野球選手権福島大会・・・白河グリーンスタジアムで校歌が2度流れました！

○Fリーグ・・・強豪校と切磋琢磨！

○各種大会・練習試合・・・結果も大事、プレー（身だしなみ、振る舞い）も大事！

- 応援委員会、吹奏楽部による野球部応援（応援する者と応援される者の心が一つに！）・・・思いやり、感謝の気持ち、友愛の精神
- I w a k i たっぷりハヤシライス販売・・・地域を学びのフィールドに！
- 期末考査（3観点を踏まえた問題作成、授業評価アンケート）、1学期学習評価（観点別評価）、3学年平常課外、土曜課外、英検、模試（1・2・3年）・・・学力向上・進路実現に向けて、粘り強く！
- 推薦委員会、医療創生大学との高大連携、保健・医療プログラム・講話（1年）・・・進路実現に向けて、みんなで力を合わせ、あの手この手で！
- 歯科検診、性講話（1年）、避難訓練、携帯電話教室（2年）、交通安全教室、いじめ対策委員会、登校指導・・・保健・生徒指導はすべての土台！
- 特色選抜の方向性・・・地域に愛される・選ばれる学校づくり

2 実りの2学期（学力向上・進路実現）に向けて、備えあれば憂いなし

※高いところから・広く（鳥の目）、足もとから・きめ細かに（虫の目）、流れを見ながら・タイミングよく（魚の目）、生徒一人一人の指導・支援をしていきましょう！

※部活を引退した3年生は進路実現に向けて、1・2年生は部活の新体制づくり。新しい環境に適応していくことができるように指導・支援をお願いします。

※メリハリのある指導・支援で、「高校生になる（1年）」「中だるみを吹っ飛ばす（2年）」「学力向上・進路実現（3年）」など、学年ごとの課題に対応していくようにしましょう！

○一人一人の生徒が、1学期をどのようにまとめ、夏休みにどのようにつなげ、夏休みをどのように過ごし、2学期をどのように始めるべきか？

○「勉強に力を入れたい、部活動がんばりたい、そんな自分の得意を伸ばせま

す！」

- ・「勉強」と「部活動・委員会活動」の両立、「授業」も「学校行事」も一生懸命に

- ・勉強を大切に、部活動・委員会活動・学校行事などに汗を流すことによって、人間力を磨いていく！

○「いわき湯本高校は大学進学から就職まであらゆる生徒の進路の実現を目指します」

- ・「学力向上」と「進路意識（目標）」は進路実現の両輪、「生徒指導なくして学習指導なし」「学習指導なくして生徒指導なし」

○「いわき湯本ならではの」の教育と「地域に愛される・選ばれる学校」

- ・「体験入学」、「特色選抜」のなかみ（自分の得意が伸ばせる学校）

- ・アカデミックコースとスペシャリストコースのなかみ

- ・「スポーツ系」、「芸術系」、「医療看護系」のなかみ

- ・「保健・医療コース（教育プログラム）」のなかみ

- ・地域を学びのフィールドとする「探究学習」のなかみ

○「2つの高校」の伝統を「いわき湯本高校」へ引き継ぐ

- ・県教委「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」

- ・県教委「統合校魅力化発信事業」

- ・生徒会・部活動などを中心に、本校舎・遠野校舎の交流を！

3 リスク・マネジメント（悲観的に準備し、楽観的に実行する！）

※「二兎を追う者だけが二兎を得る」（両立、バランス）と「二兎を追う者は一兎をも得ず」（リスク・マネジメント、タイムリーなサポート）

○感染症対策＋熱中症対策を徹底しながら教育活動を保障していきましょう

- ・「感染症対策」は気を緩めず確実に、「熱中症対策」は場面に応じて適切に、「学び」は止めない

○コロナ禍における学校行事の「いわき湯本モデル」づくり→公開文化祭、球技大会、全校応援、壮行会、全校集会、修学旅行など

- ・“新しい生活様式”を踏まえた学校の対応レベル1・2・3に応じた実施可能な企画内容や感染症対策などを検討
- ・「最悪」を想定しながら、「最善」を目指して、「全力」を尽くす・・・練習試合や宿泊を伴う遠征など、感染状況を踏まえ、あらかじめさまざまなケースを検討しておく

○不祥事を他人事としてではなく、自らの問題として受け止め、自らの言動をさまざまな視点で見つめ直すことが必要(「信頼される学校づくりを職場の力で」)

※夏休みはさまざまな教育活動(特に、学力向上・進路実現の取り組みや部活動等)が目白押しですが、仕事のメリハリをつけ、リフレッシュしましょう!

※7・8月はリフレッシュ強化月間。早めに帰ることができる場合は早めに帰しましょう。少しでも休めるときは休みましょう。振休、夏季休暇、年休などを上手に使いましょう)

○生徒観察、教育相談、心のケア・・・みんなでSOS(生徒から・先生から)をキャッチ・情報共有

○先生が元気なら、生徒は安心・・・心と体のメンタルヘルスマネジメント!

○変化に気づく・見逃さない・声かけ・悩みを抱え込まない・一人で背負い込まない

○特別支援教育コーディネーターと連携しながらSC、SSW、医療・福祉機関などにつながる・つなげる

4 教師の中核の仕事は授業（3つの問い（目標・指導・評価の一体化））

※観点別評価や一人一台端末を含むICTを活用した学びについては、生徒・保護者に丁寧に説明

※2学期も、「3つの問い」で、日々の授業をブラッシュアップしていきましょう！

○1つめの問い：授業の目標は何ですか？（育成したい資質・能力は何ですか？）

- ・学習指導要領が示す3つの資質・能力 「知識・技能」「思考・判断・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」
- ・本校で育成したい3つの資質・能力 校訓「自立」「友愛」「創造」

○2つめの問い：そのために、どのように指導しますか？

- ・手立て（授業展開、発問、資料、ワークシート、ICTの活用など）

○3つめの問い：授業の目標はどの程度達成できましたか？

- ・学習の評価、学習のための評価、学習としての評価 ・観点別評価（「知識・技能」「思考・判断・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）
- ・育成したい生徒像、育成したい資質・能力の評価指標（ルーブリック）
- ・スクールミッション（県教委）を踏まえた「スクールポリシー」

《高校教育のキーワード》

○第7次福島県総合教育計画、「学びの変革推進プラン」

○県いじめ問題対策委員会（報告書をいかす）、一人一台端末（モデル校の取り組みを参考に、すべての授業で活用）、普通科コース制、震災学習（震災の経験と教訓を継承）、コミュニケーション教育（演劇教育、哲学対話）、働き方改革、生徒指導・支援、教育相談（SOSを見逃さない）、不祥事根絶（事務手

続きは複数点検)

- 教育的ニーズなどを踏まえ、生徒・保護者からの相談は丁寧に
- スクールミッション→スクールポリシー
- 高校入試（特色選抜のなかみ）、教科「情報」、緊急時の連絡体制（初期対応がきわめて重要、最悪を想定した対応）
- 生徒の生命を守る（夏は熱中症や水難事故など）